
Rondino

葉月 恵里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

R o n d i n o

【Nコード】

N 0 7 9 5 Y

【作者名】

葉月 恵里

【あらすじ】

徐々に冷たくなってゆく少女を抱きかかえながら、彼は誓う。

「必ず、君をみつける。……何度生まれ変わっても。」

少女は微笑み、ゆっくりと瞼を閉じた。

遠い遠い、過去の記憶。

彼らは再び出会い、恋に落ちるのか———？

プロローグ

遠い遠い過去の話。

誰の記憶かも分からない。

なのに、どうしてだろうか。

私は、覚えている———。

古い洋館の様な内装の建物の中央に、黒い燕尾服で身を包んだ男が。
薄暗く、顔はよく見えない。

彼が抱きかかえているのは、血の気の無い少女。

男はうつすらと目を開ける少女の耳に唇を寄せ、何かを囁く。

少女は微笑み、ゆっくりと瞼を閉じた。

再び訪れる、沈黙。

男はおもむろに立ち上がり、少女の身を貫いたナイフを自分の胸に
突き立てた———。

「必ず、君をみつける。……何度生まれ変わっても。」

第一章 第一話 ―美貌の王―

男はその時を待っていた。

ずっとずっと待ち続けてきた。

何十年――いや、何百年も。

“彼女”が生まれ変わる、その時を。

今でも覚えている。

“彼女”と共に過ごした時間を。

優しい微笑みを。

そして、徐々にぬくもりを失ってゆく身体を。

その瞬間に覚えた痛みを。

言いようのない憎しみと、溢れだす悲しみを。

しかし、今はそんなものより喜びの方が大きかった。

男はゆっくりと歩を進める。

それは、その時が来たという合図だった。

傍に控えていた魔導師たちは呪文を唱え始める。

その場にいる皆が固唾を呑みながら部屋の中央に青白い文字が浮かび上がるのを見守る。

それらはゆっくりと動き出し、なめらかな曲線を描きだす。

一つの——いや、一人の人間の形を模ったものの、文字は泡のよう
に弾《はじ》け、消えてしまった。

＊ ＊ ＊

「これは一体どういうことだ！」

空気を震わせるような鋭い声がざわついた空間を水を打ったように
静まり返らせる。

ある者は怯え、戦慄き、その美貌に見惚れていた。

感情を表に出さない彼が怒鳴るのは、非常に珍しいことであった。

一人の魔術師が一步前に出て気が立っている主に頭《こうべ》を垂
れた。

仲間の魔術師たちは縋るように主を見つめるが、そんな思いは通じ
ない。

「し、しかし我が君、この魔術は古の都から代々伝わるもので成功
するかどうかは——」

「下がれ」

“あの方”の儀式というのは——」

「下がれ。お前の主になったつもりはない……下がれ！」

「はっ」

魔術師たちが去るのを見届けながら、彼——レオンハルトは眉を
寄せた。

国中からも、人間界からも探し出した有能な魔術師たちを呼び、儀式を行わせたのだが……。

“彼女”は現れなかった。

今日何度目か分からない溜め息を、つく。

今でも覚えている。

あの日のことを。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0795y/>

Rondino

2011年12月20日16時53分発行